

2007年度

事業報告



学校法人 聖母女学院

2007年度 学校法人聖母女学院 事業報告

学校法人聖母女学院（以下、本学院という）は、第一に、2006年度までの事業計画において提言・提示されてきた事業計画の内容及び基本路線を踏襲しながら、それらに新たな改良・改善を加え、現実的で実地的な改革に取り組んでいくこと、第二に、本学院において直面し、また山積している重要課題のうち、実行または実現可能なものから優先順位をつけ、それらについて理事並びに法人事務局主導型で実行・推進していく「実行型」の行動計画とすることの2点を行動計画策定の基本姿勢とした。

I. 学校法人の横断的な重点計画についての総括

1. 『法人全体の経営基盤健全化と安定化への諸策の策定、及びそれらの実行並びに実現』

学校経営上の効率化を確立することを目的とし、寄附行為の変更（2008年4月1日施行）を行い理事定数（11名以上13名以内から9名以上11名以内へ変更）及び評議員定数（23名以上27名以内から19名以上23名以内へ変更）をそれぞれ削減し機動的・迅速に対応できる体制とした。

また、管理部門の機能を充実（学院事務室を新たに設置）させるとともに管理部門全体の効率化（法人事務局の組織改編）を図るべく取り組んだ。

2. 『財務、財政面での改善と改革の断行』

予算編成、決定と執行の手順及び方法を本学院予算規程に基づき、前年度3月末までに次年度予算を決定し、決定された予算枠に沿って執行することを徹底した。この予算執行の徹底化により教育研究経費及び管理経費において35百万円を削減、人件費の改善に当たっては、一時金の1カ月削減、人員削減により前年に比べ190百万円の削減を行った。この経費及び人件費支出の抑制策の結果、前年度の帰属収支額においては143百万円の支出超過となっていたが、当年度の帰属収支差額において39百万円の収入超過という結果となり、2年続けての帰属収支差額の支出超過を避けることができた。また、少子化に伴い各所属の園児・児童・生徒・学生の減少が進んでいることにより、短期大学では、2008年度からこれまでの3学科制を生活科学科・児童教育学科の2学科制へ改組・改編し、財政面での改善を図っている。

3. 『建学の精神に則った、本学院の特徴と個性を充分発揮した教育内容の充実と向上』

各所属において建学の精神の具現化（「園児・児童・生徒・学生の一人ひとりを、かけがえない存在として何よりも大切にすること」をすべての教職員が日々の職務の中で実践すること）に向けて取り組んできた。教育内容の充実として、具体的には、学院中高では2009年度から国際コース設置の決定及び中学3年生からのコース制度の見直しと高校からのコース制度への変更、大阪小・学院小では2011年度より完全実施される新「小学校学習指

導要領」に対応するため2008年度から授業時間増の先取り実施等がある。詳しくは、あとに掲げる「Ⅱ. 法人内設置校の事業報告（取組の総括）」における各所属の実践を参照されたい。

また、新人事制度構築プロジェクトチームを創設し各所属及び教職員組合との意見交換を行い2008年度から、幼・小・中高の教員を対象に自己申告書を用いて各教員の達成度を所属長が評価を行う人事制度導入を決定し、教員一人ひとりの職務能力の向上を目指す。

聖母教育支援センターについては、子どもの夢が育つ学校作りを目指し保護者、地域の方々の協力を得て地域社会に根付いている文化を取り入れると同時に、学校から地域に発信し、地域に貢献できる交流の場を作るため、理事長直轄機関として拡大改編し特別教育支援室と地域・家庭支援室を設置した。「特別教育支援室」は、主に在校生・保護者、教職員を対象に開かれており、藤森学舎と香里学舎合わせての相談件数は次のとおりである。「カウンセリング・ルーム」における生徒、保護者、教職員の相談件数は、延べ人数368人、「箱庭療法」は、延べ人数842人、「特別支援教育」は、担当者二人の合計が1,773人である。「地域・家庭支援室」は、地域にも開かれており、「ボランティア部」では、点訳、朗読などのボランティア活動をはじめ、乳幼児預かり保育などを実施。「生涯学習支援部」では、2008年度に向けて、記念講演会、ボランティア講座、聖書の集いなどを企画。2008年5月からスタートの予定である。

4. 『生徒募集活動関係の組織・体制の強化と集約化並びに広報活動における学

院全体の統一された戦略的な推進と行動』

募集対策委員を中心に内部進学強化のために所属間の連携強化を図ったが、全体の集約ができておらず統一した戦略を構築することが不十分であった。広報活動としては、藤森学舎の正門前に新たに掲示板を設置し各所属の広報スペースを増加した。また、ホームページの見直しと内容の刷新を図るべく広報委員会を中心に取り組んでいる。学院全体の広報については、広報担当理事を中心に戦略的広報活動を進めている。

5. 『中期的展望及び将来構想へ向けての諸策の見直し、諸規程の再検討及び関

連事項の整備と充実』

理事会を中心に中期的展望及び将来構想について検討を重ねており、2008年度から将来の校舎等への建設整備資金を積み立てる特定預金を創設した。

諸規程の再検討及び関連事項については、現状の問題点を洗い出し、見直しが必要なものは、順次規程の改定を実施した。2007年度においては、懲戒に関する規程の改定、メンタルヘルスケアに関する規程、指導力不足等教員の取扱いに関する規程を制定。今後は、これまで全面的に見直されていなかった給与規程、組織規程及びその他諸規程の見直しを進めていくことになった。

Ⅱ. 法人内設置校（各所属）の事業報告

聖母女学院短期大学

1. 2007年度教育目標

『建学の精神』に基づき、学生一人ひとりの将来の目標・適正に合わせて専門的な知識や教養を身につけ、十分な能力を発揮できる人物を育成することを目指す。より一層の学生サービスの向上に引き続き実施すると共に、入学者の減少に歯止めをかける。

2. 2007年度における具体的な取り組み

1) 各学科共通

- ① 2008年度の3学科から2学科に改組・改編に向けての、カリキュラムの見直しと充実を図るとともに、15週（半期ごと）の授業時間を確保した。
- ② 入試広報センターを新設し、より一層工夫したオープンキャンパスの開催、教職員による多くの高校訪問、進路相談会等による計画的な広報活動を行った。
- ③ 改組に伴う事務室改組の見直しと再編について、事務改組準備委員会を立上げ、2008年度から「副手規程」の改正等による、効率的な事務体制を確立し人員削減を図った。

2) 生活科学科

- ① 少人数ゼミ教育「生活科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を、学科全体の必須授業として実施、卒業後の社会人基礎力育成として実施した。また、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に応募し、二次審査までいったが残念ながら採用されなかった。
- ② 2008年度の改組・改編に向けて、生活福祉専攻 情報ビジネスコースへの改組・改編準備等、カリキュラムの充実と教育施設の整備等を実施した。
- ③ 「生活科学講座」を開催し、多数の高校教員の参加があった。

3) 児童教育学科

- ① 2008年度の定員増に伴う学科の改組・改編に向けて、カリキュラムの全面的、抜本的な見直しと充実のため、2008年、2009年（完成年度）の本科、専攻科のカリキュラム、時間割等の改正を行った。
- ② ピアノ更新等、教育環境の整備を図った。
- ③ 毎年実施していた保育講座、卒業作品展等を見直し、公開講演会等を含めた地域社会に開かれた第1回「聖母保育フェスタ」を3月7日から9日の3日間、短期大学学舎内で開催し延べ300名の参加があった。

4) 国際文化学科

- ① イギリス3カ月留学（内1名6カ月）を実施し、2007年度においては11名が参加した。留学しなかった学生に対しては、一層きめ細かな指導を推進した。
- ② 英語検定については2006年度に引き続いて、30名以上の受験者があり、適時支援を行った。
- ③ ユニバーサルデザインを理念に、2008年度に向けて「生活科学科生活福祉専攻」に相応しい改組・改編を図った。
- ④ 認知症緩和ケア「タクティール」の修了証が取得できるカリキュラムを、2008年度に向けて構築した。

3. 成果

1) 生活科学科

- ①カリキュラムの充実等により、2007年度卒業生は、132名中126名卒業、資格取得ではホームヘルパー13名、2級建築士・土木建築士受験資格10名、インテリアプランナー14名、商業施設士補13名、フードスペシャリスト15名、栄養士36名、栄養教諭14名と資格取得者の増加につながった。

2) 児童教育学科

- ①カリキュラムの全面的、抜本的な見直しと充実のため、2008年、2009年（完成年度）の本科、専攻科のカリキュラム、時間割等を改正したことにより、児童厚生2級指導員の資格の導入ができた。
- ②老朽化したピアノの更新ができたことにより、充実した授業が展開できるようになった。
- ③2007年度卒業生は、153名中147名で幼稚園教諭2種が88%（130名）、保育士資格が95%（140名）の取得率となった。

3) 国際文化学科

- ①2007年度卒業生は、57名中55名卒業（2006年度は、98名中87名卒業）となり留年生は最小限とどめられた。

4. 今後の課題

聖母女学院短期大学では、今年度も建学の精神に則り、学生一人ひとりの将来の目標や適正に合わせて専門的な知識や教養を身につけ、十分な能力を発揮できる人材を育成することを目指す。また、学生に合った授業を行うため、改組に伴う新カリキュラムの検証を図っていきたい。学生募集については、より実践的な広報活動の強化と、多様な入試対策の実行により募集定員の確保必達を目指す。

1) 各学科共通

- ①新体制に伴うカリキュラムの充実と整備と検証
- ②15週（半期ごと）の授業時間の確保
- ③短期大学基準協会による「認証評価」の認定
- ④事務組織へ改編に伴う事務改善の推進
- ⑤入試広報センターの充実による広報活動の強化

2) 生活科学科

- ①3専攻体制の確立—国際福祉専攻から生活福祉専攻への改組の明確化
- ②「生活科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（生活科学科全員必修）を更に充実させ、社会人基礎力の養成に重点をおく。
- ③「情報ビジネスコース」（改編・新設）へのソフトランディングに努め、多彩な資格取得を図る。また、他専攻からも本コースが受講できるよう時間割を工夫し、資格取得が社会でより生かせるよう工夫する。
- ④ボランティア活動をさらに充実させる。
- ⑤生活福祉専攻での海外研修を実施し、海外介護系資格取得を目指す。
- ⑥社会福祉士介護福祉士法改定に伴う新カリキュラムへの対応
- ⑦担任制による休学者、留年者ゼロにむけたきめ細かな取り組みの実施と継続

- ⑧生活福祉講演会、介護予防サロン等の社会貢献事業の推進
- ⑨タクティール修了証取得可能な福祉先進国スウェーデンへの研修の充実

3) 児童教育学科

- ①新カリキュラムの実施に伴う諸問題の解決と実施内容の充実のための具体的取り組み
- ②学生指導のあり方を更に充実させるため、ゼミ担当、クラス担任、実習巡回等、学生指導に工夫、努力する。
- ③実習等に関わる種々のあり方等の検討・改善
 - 大学としての実習に対する取組み姿勢の改革・充実
 - 実習校（園）との関係の改善・充実（就職を含む）
- ④本科の教員資格等に関わる文部科学省の監査への対応

4) 国際文化学科

- ①クラス担任制、ゼミの充実及び進路先決定に向けた個別指導、4年制大学編入希望者への個別対応等により、最終卒業生を送り出す。

聖母女学院中学高等学校

1. 2007年度教育理念と教育目標

- 1) 「建学の精神」に基づいたカトリックの人間観にもとづく教育を通して、真理を探究し、愛と奉仕と正義に生き、真に平和な世界を築くことに積極的に貢献する人間を育成するためのカトリック学校としての使命の再確認と実践を行う。
- 2) カトリックの女学校に相応しい宗教教育、人権教育、教科教育等を通じ、「一人ひとり大切に」を基盤に据えた人間教育を目指す。
- 3) 具体的には「礎」をテキストに職員会議ごとに10～20分間の輪読研修会を実施する。（年間12回）
- 4) 「愛」「INTELLIGENCE」「IDENTITY」「INTERNATIONAL」を共通の教育目標に「聖母らしさ」と「聖母アイデンティティー」の共有化とその実践に努める。

2. 2007年度における具体的取り組みと成果

1) 基本的生活習慣の確立

- ①遅刻指導の徹底・・・家庭との連携を行うことにより遅刻生徒が皆無になった。
- ②不登校傾向生徒及び特別支援・配慮生徒に対し関連機関の支援、保護者・保健室・教室並びに担当教職員との連携により特別指導の体制を強化した。
- ③生活指導の一貫性
- ④生活指導講演会「性に関する生活・保健・人権講話」開催
- ⑤携帯電話・メール使用に関する指導強化

2) 基礎学力の涵養

- ①コース制学級及びカリキュラム編成
- ②別室学習指導
- ③習熟度学級編成（数学・英語）

④学力不振者指導

⑤先取り学習補充（数学・理科）

⑥廊下学習

⑦居残り学習 等

個人の学力に応じたきめ細かい学習指導による基礎学力の向上と学習習慣

3) より高い自己実現と進路指導

①自己発見・自分探しのための個性・興味・関心・適性に応じた進路指導

②コース・学力・能力に応じた進路指導及び保護者・生徒説明会

③大学・短大・専門学校別説明会と進路ガイダンス

④センター試験対策補習・模擬試験

⑤進路先別特別講習

⑥土曜講習

4) 教育内容の充実と学習指導方法の工夫と改善

①「わかる授業」「信頼される授業」・・・授業シラバス, 授業進度表

②予備校授業教員受講・・・国語・数学・理科・英語

③教科間授業見学・研修・・・公開授業

④教職員宗教教育研修・・・「礎」輪読会

⑤宗教行事・・・各ミサ・ロザリオの集い・錬成会・クリスマスセアンス等

⑥コーチング研修・・・3回：38名受講

⑦体育祭・合唱コンクール・聖母祭・生徒会活動・部活動・・・入賞, 表彰多数

⑧英語検定・漢字検定・・・年間3回, 各検定卒業までに全員2級合格を目指す。

5) 開かれた学校づくりと聖母教育文化の発信

①公開授業・・・(4/27金・5/21月・6/7木・10/16火) (計287名)

②さくらイン聖母・・・(約650名)

③プチセアンス (約400名)

④体育祭・聖母祭

⑤福祉ボランティア活動(あしなが募金・老人ホーム・障害者施設・福祉施設等訪問・・・
24回延べ220名)

⑥寝屋川六中校区連絡会・保護者清掃活動

⑦中学3年総合学習・福祉活動・障害者理解「共に生きる」8回

⑧国際交流・・・タイボランティア隊(15人), カナダ語学研修(15人),
国内英語研修(ブリティッシュヒルズ・21人), 海外留学3人

6) 学校組織・運営体制の活性化

①コラボレーション, 役割分担(責任と互助, 報告・連絡・相談の徹底)

②連携の徹底(学年・分掌・教科・校種間)

③管理職会議・職員会議の機能化

7) 生徒募集対策

①「一人一役」・「糧」・「種」, 「聖母女学院像」のスクラップ&ビルド

②広報宣伝活動の活性化(学校案内・ポスター・接客電話対応・‘良いこと’発信)

③塾及び中学校対策(挨拶訪問・案内依頼・PR・要望・感謝礼状等)

塾訪問（入試対策室・管理職中心に延べ938回）、

中学校訪問（全教員・入試対策室・管理職が京阪沿線都市立全中学校，大阪市立・豊中市立・吹田市立・高槻市立・大東市立・四条畷市立・交野市立・東大阪市立・八幡市立等主要中学校中心に延べ110回）

④学校主催イベント（オープンキャンパス，聖母ゼミ，1日聖母生，入試説明会，入試対策ゼミ，保護者が語る聖母等・・・合計373名参加）

8) 進路状況（卒業生78名，センター入試受験者23名） 合格実人員数

国公立（4名）・・・京都工織・滋賀大・奈良教育・京都市立芸大

薬・歯学（7名）・・・大阪歯科・同女薬・神戸薬・摂南薬・大阪大谷薬

関学4名，関西大9名，同志社3名，立命館9名，京都女子3名，同志社女子1名 神戸女学院1名，龍谷3名，京都産業3名，近畿5名，聖母短大6名等

3. 今後の課題

1) 募集対策と生徒確保（外部対策・内部対策）

2) 「聖母らしさ」は品格，カトリックの女子学校としての教職員の意識改革

3) 基本的生活習慣や礼儀・躄，言動・態度も含めた豊かな人間教育の指導

4) 信頼される学校づくり（授業改革・指導力・教育力・人間力，開かれた学校）

5) 「一貫校」としての方向・あり方

6) 特別支援・特別配慮要生徒（30名）の指導と支援体制及び課題と影響等々

聖母学院中学高等学校

1. 教育目標

聖母学院中学・高等学校では，カトリックの人間観・世界観に基づいた教育を推進し，宗教教育やさまざまな学校行事をとおして，平和と正義を求める愛と奉仕の心に満ち，調和のとれた豊かな人間形成を目指す。また，一人ひとりが自分自身の将来について深く考え，自らの進路を選択できるようなきめ細やかな進路指導を行っていく。

2. 重点目標と取り組み

1) 宗教教育の充実

①朝の祈りをはじめ学校行事等における祈りを大切にすることを，教職員・生徒に徹底指導する。また，典礼月，例えば10月の死者月の追悼ミサやロザリオ月の祈り等，典礼月の意識化を図るなど，カトリック学校として相応しい宗教的環境の確立に力点をおいた。

- ②カトリック精神及び建学の精神に基づく実践的取り組みの一層の充実を図り、実践をとおして、その意味をより深く学ばせること、そのための重要な教育の場として「福祉の日」を位置づけた。また、クラブ活動にも積極的にボランティア活動を奨励・実践させた。
- ③宗教教育は、他人を思いやる心の育成など生き方の教育である。そのような観点から、基本的生活習慣の確立に教職員挙げて取り組んだ。

2) 英語教育の充実

- ①2006年度に引き続いての外国人講師による英会話授業を実施し、とくに中学生のオーラルコミュニケーション能力の充実を図る。
- ②国際コースのカリキュラムの作成と教員の確保および保護者への説明など、2009年度募集要項作成への具体的取り組みを行った。

3) 安全で安心な教育環境の整備

- ①南館3階のエアコンの整備を8月に実施
- ②南館普通教室出入口扉と鍵の取り替えを7月～8月に実施
- ③プール更衣室での事故防止のための簡単な改修を保護者会の協力で実施
- ④照明器具の取り替えの実施
- ⑤早朝および夜に管理職が校舎を巡回し、安全確保を徹底する。
- ⑥小学校と連携し、登下校指導の徹底

4) 心の教育にかかわる教育の充実

- ①保健室の設備・機能充実のための移転と改修を5月に実施
- ②旧保健室跡に教育相談室を設置し、生徒の心にかかわる教育相談体制を整える。

5) 教員研修の充実

- ①授業力の向上を目指し、管理職・教務部長・進路部長・5教科主任のメンバーで、検討委員会（11月に2回、12月2回、1月に1回の合計5回）を開き、問題点を抽出し改善策を検討した。また、塾、予備校等で実施される研修会への積極的参加を奨励した。
- ②全教員にコーチングの手法を会得させるため外部の専門家による研修会を1回実施し、多数の教員が初級資格を取得した。

6) 中高一貫教育を研究推進

中学校3年生で実施していたコース制度を見直し、中学校はすべてを均等クラスとしたことに伴い、高等学校のコース制、中高の適切なカリキュラムの研究を行った。

7) 広報、募集対策の強化

- ①施設、設備等の整備は、予算の関係で実施できなかった。
- ②説明会への人員の派遣人数の増加によって、より丁寧によりスムーズな説明会の環境をつくる。
- ③学校案内等の広報および学校紹介ツールをより充実したものにする。

3. 成果

- 1) 毎朝の祈り、生徒朝礼での祈り等、静かに祈りの時間を持てるようになった。教員も

全員が仕事を中断して朝の祈りができるようになった。この朝の落ち着いた時間が1日の過ごし方により影響を与えてくれることを期待している。

- 2) 建学の精神の実践力が、福祉の日の生徒の様子やその他のボランティア活動への参加の状況から生徒たちの心のなかにかなり浸透してきている。
- 3) 挨拶・聞く姿勢・時間を守る等の基本的な生活習慣は、人間の尊厳や他人を思いやる心につながり、カトリック精神の大切な部分であることが少しずつ教員にも生徒にも理解され、実行されるようになった。このことがより気持ちよく学校生活を過ごすことができる要素になればと考えている。
- 4) 国際コースの設置に関しては、学院小学校の協力もあり見通しが立った。語学留学先の検討が現在進行中である。
- 5) 保健室の機能向上と相談室の設置は、大いにその成果を発揮している。とくに、相談室の利用者数は予想を大きく上回り、生徒のみならず教員が相談に行くケースもかなりあり、生徒指導上の大きな力となっている。
- 6) 教員研修の奨励がきっかけで、この春休みに組合主催の研修会（2008年3月～4月に5回）が実施されるきっかけとなるなど、それなりに成果を得ている。また、コーチングの研修により教員の生徒指導の様子が少しではあるが変化しているように見える。この手法の利点を活かし、生徒の主体性を培えればと期待している。
- 7) シラバスの作成により、シラバスに叶った授業展開を意識すると共に授業計画を見直し、より良いものにと考える教員が増えてきた。この雰囲気を大切にしたい。
- 8) 生徒募集対策としては、昨年以上に塾や中学校の訪問回数を増やし、広報活動に力を入れた。また、大手塾の入試説明会等の外部で実施される説明会へ積極的に参加した。学院小学校に対しては、オープンスクール、説明会など今まで以上の活動を実施した。
- 9) 生徒募集対策の一つである進路の保障をより厚くするため、同志社女子大学との高大連携協定（授業・講義連携・課外活動支援・交流・教員間連携・教育連携協定校特別推薦入試）を結んだ。

4. 今後の課題

- 1) 上記の成果を定着させ、より充実させることが大きな課題である。
- 2) 生徒募集は、予定どおり行うことができなかった。この現状から抜け出すためには、聖母学院の魅力づくりが必要である。これが最重要課題と考えている。ただし、学校の魅力は、学んでいる生徒、そして学ぼうとする子どもたちや保護者に伝わるものでなければならない。
- 3) 国際コース受け入れ準備の点検と、コースを受け持てる中高教員の育成が課題として残る。
- 4) 進度と時間配分、授業内容等の研究については、どの教科もまったくといってよいほど何も行われていない。到達目標と年間の授業計画の研究など授業力向上のためには、課題が山積している。
- 5) 校舎や体育館の老朽化に伴うさまざまな修理・改修工事を必要としているが、資金の関係上先送りしている。多目的室等外来者を迎える部屋の机・椅子の入れ替えを検討している。

大阪聖母学院小学校

1. 2007年度教育目標

建学の精神を基盤として、「カトリック価値観に基き、人を愛し自らを高める強い意志と豊かな心をもつ子どもを育成する」

2. 2007年度における具体的な取り組み

1) 宗教教育の充実

子どもの学校生活に密着した宗教教育の実践のため、宗教の時間を担任が担当して3年次を迎えた。より充実したものとするために以下のことに取り組んだ。

- ①指導資料の整備…ビデオや紙芝居、書籍を職員室の一角に集めて、どの教員でも利用しやすいようにした。また、実践記録をまとめ、これを集約して今後の指導の参考にした。
- ②宗教研修の充実…神父による教員研修を隔月で実施しカトリシズムについて理解を深めるとともに、宗教の授業についての研究を進めて指導方法などを交流した。
- ③保護者の啓発…学校だよりで宗教行事や典礼について説明した。また学年ごとに学年ミサを開催し、保護者の参加を促した。

2) 授業の改善

国語科を中心とした教科研究に力点をおいて、話し合い活動を取り入れた授業の研究を深めるため、低中高学年それぞれから提案する研究授業（3回）に加え、全教員の公開授業（22回）を実施し、その都度研究会を行った。また、電子教育機器（電子ホワイトボード）の研修・活用にも取り組んだ。

3) 生徒指導の充実

子ども個々の生活の背景をふまえた児童理解や、発達に課題がある児童についての共通理解を深めるために、校内研修を複数回実施した。

- ①いじめの根絶のために…常に全教員で子どもの情報を共有して早期発見、早期指導に心がけた。
- ②特別支援教育について…外部から指導者を招聘したりカウンセラーと連携したりしながら、研修を重ね理解を深めた。
- ③規範意識を高めるために…教師間で指導内容を正確に共有し、ルールやマナーの徹底を図った。
- ④保護者との連携…日常の連絡・相談活動を充実させ、学校の取り組みについての理解を図るとともに、保護者相互の連携も支援した。

3. 成果と今後の課題

1) 宗教教育の充実

朝の任意の祈りの会に参加する教員が昨年以上に増えてきたことから、教員に宗教教育に自ら携わっているという意識がかなり浸透してきたように感じる。子どもたちが宗教で学んだことを行動として実践できるために、全校あげて行う実践活動（例 聖母月の実践）を一層充実したものにする指導の工夫が必要である。単に目標を決めてシール等を貼るといった形式的な活動に終わらせることなく、担任の学級経営方針にそった意図的、計画的な取り組みにしていかなければならない。特に高学年になるほど深化していけるような宗教教育を、実践しなければならない。

2) 授業の改善

担当教員による熱心な授業準備の成果もあり、公開授業への参観者も昨年より多くなった。ただより広い視野で先進的な実践に学ぶことと、公開する授業への取り組みが日々の指導と繋がっていくことが今後さらに必要である。さらに、「子ども相互のかかわりを深め考え方をひろげる」といったことをどう授業の中で深めていくかが、研究を通して見えてきた本校の課題である。

3) 生徒指導の充実

教職員のチームワークが年々深まりその連携のうちに、個々の事案が深刻な状況になる前に解決に向かう場合が多い。ただ課題（学習面・生活習慣面・家庭面・健康面）を持つ子ども（1クラスに2、3人程度）をどう集団の中に入れ、「友だち」として学級づくりをしていくかという点は課題が多い。さらに規範意識を育てるために、いっそうの教師集団の一致と連携が不可欠である。子どもたちの学校生活の充実こそ、生徒指導の課題の要である。

聖母学院小学校

1. 2007年度教育目標

カトリック学校としての建学の精神を基盤にした教育を進める中で、「創造性豊かな子ども」「誠実な子ども」「人を大切にし、奉仕の喜びを知る子ども」の育成を目指す。そのために、2007年度は、年度当初に所属教員が「職務に関する自己点検」を行い、その結果をふまえた「教員の職務に関する自己申告」を実施し、教員の意識改革とともに教育の充実を図る。

2. 2007年度における具体的な取り組み

1) 宗教教育、人権・福祉教育の充実

- ①宗教の時間について、学級担任が行う月1回の授業の指導計画の改訂（副読本の購入）
- ②人権・福祉教育研修の実施（1回）

2) 教育課程の管理

- ①教育計画のファイルの整備・充実
- ②教育課程実施状況の管理の徹底
- ③国際コースの教室確保、カリキュラム及び教材の整備〔5、6年生の日本語検定教科書（理科・社会）の翻訳の完成〕

3) 授業改善

- ①授業研究の充実（教科別研究グループの設置・活動、教科・学年合同研究会の実施、全25学級の授業研究の実施）
- ②管理職による授業観察・指導、若手教員指導の継続（毎日、若手教員指導員1名）
- ③公・私立学校の研修会への教員派遣（13回でのべ170人）
- ④総合的な学習の時間の充実（選択コースの充実）
- ⑤教育機器（電子ホワイトボード6台、プロジェクター6台）の充実

4) 生活指導の改善

- ①教育相談研修会の実施（2回）
- ②生活指導体制の充実と指導の徹底（毎日の終礼時の事例報告）
- ③ロールプレイ研修会の継続による指導技術の向上（1回）

5) 環境整備

- ①安全点検の継続実施（毎月実施に加え、年3回の総点検実施）
- ②補修箇所の修繕（含む：内部努力＝児童机の天板張替、ロッカーの扉の取替）

6) 募集対策のための広報活動の充実（HPの随時更新、塾出張説明会5回、

本校説明会2回、見学希望者随時案内25回、転入・編入試験の随時実施、
内部幼稚園出張説明会及び交流会1回ずつ実施）

3. 2007年度の総括

- 1) 学級担任による宗教の時間の指導が定着し、京都私小連研修会で全25学級の授業を公開した。
- 2) 教育課程実施状況を毎学期に行った。教育計画ファイルを作製した。
- 3) 西日本私小連研修会に向けて、全25学級が研究授業を行った。
- 4) 安全点検、防災訓練を毎月確実に実施し、教職員及び児童の意識を高めた。

4. 今後の課題

募集対策については、学則定員の充足に向けてなお一層の努力をする必要がある。

聖母学院幼稚園

1. 2007年度教育目標

建学の精神に基づき「神様から愛されていることを知り感謝できる子ども」「創造力豊かに考える子ども」「たくましい心の子ども」「相手の立場に立って考え、理解できる子ども」に育つよう、人格形成の基礎育成をめざすことを基本に、今年度の主題を《神様の愛の中につつまれ、すくすく育つ》とする。「お友達をたいせつに、自分をたいせつにする」「自分で考え、自分のことばで話す」「新しいお友達と一緒に楽しく遊ぶ」ことを目指す。

2. 2007年度における具体的な取り組み

1) 宗教教育の充実

- ①日々の保育に取り入れられた祈り・聖歌により、神様・宗教に親しむ
- ②宗教行事を保育に取り入れる
- ③お話や紙芝居を聞き神様をよく知る

2) 保育の充実

- ①モンテッソーリ教具による自主性の育成

- ②年長児の正課体操保育の実施
- ③年長児の正課英語保育の実施
- ④表現活動の強化
- ⑤安全教育の実施

3) 募集対策につなげる課外活動

- ①預かり保育（保育終了後から17時）の実施
- ②園庭開放の実施
- ③課外教室（ことばの教室）の実施
- ④夏季延長保育の実施
- ⑤チャレンジ保育（年長児の入試対応講座）
- ⑥未就園児クラスの実施（2007年11月から開始し、「外部未就園児の受け入れ」に参加した子どもの9割が2008年度年少組へ入園）
- ⑦子育て支援講演会の実施（7回）

4) 教員の育成

- ①学内・学外での研修会開催・参加
- ②資格取得

3. 成果

- 1) 聖母学院幼稚園で、はじめてカトリック、神様、マリア様に会った子どもたちが日々の保育の中での祈りや聖歌に親しみ、神様に守られていることへの感謝、神様への思いを深めることができた。
- 2) 毎朝自分で選んだ作業を楽しむことの積み重ねにより、集中力・自主性が培われ、また数、ことば、色、かたち、手の働き等の力の拡がりに繋げ、自然に触れ心をときめかし、心を動かして豊かな感動中で自分を表現する楽しさを学ぶことができた。
- 3) 英語・体操保育やピアノ・縄跳びで練習の楽しさ・継続による上達の楽しさを知り、特に体操では集団づくり・チームワーク・ルールの意識づけができた。
- 4) 毎月の避難訓練・安全教育で人と命の大切を学んだ。
- 5) 在園児の保護者の要望をふまえた時間外・課外の取り組みや子育て支援の提供により、入園希望者の増加につなげるよう今後も継続できる内容で開始することができた。
- 6) 教員の研修への積極的な参加や資格（幼稚園教諭第一種）により資質の向上ができた。

4. 今後の課題

- 1) 宗教教育や安全教育により神様に創られ、守られている「ひとり」として、命・人を大切に、生きることの喜びを認識し、人格形成の基礎とする教育の継続・徹底を行った。
- 2) 教職員の資質をより一層向上させることにより、園児・保護者から、聖母学院幼稚園を選び、託してよかったとの信頼を得ることができる教育を心掛ける。
- 3) 少子化が進む中での募集対策につなげる保護者へのニーズ（自家用車による送迎の自由化・預かり保育の時間延長等）対応や、学院・幼稚園としての策を実践する。

Ⅲ. 法人事務局の管理運営についての総括

1. 財政健全化に向けた厳格な予算執行、及び諸経費削減のための実践的取組

経費支出の大半を占める人件費の削減に対して、適正な人員配置を見据えて取り組みを行ったが、結果的には3名の減少にとどまった。引き続き担当業務の一元化などによる業務内容の見直し、情報の共有化などを積極的に進め、適正な人員配置による人件費の抑制につなげていく。

諸経費削減については、出張経費の見直し、各種会議経費の見直し、植樹剪定作業を業務職員で行うことでの剪定費用の削減、プリンターのトナーをリサイクルトナーに変更するなど、細かな点の積み重ねを図ることによる削減を図った。一方、この厳しい募集状況の中、募集広報活動に掛かる経費については積極的展開を図った。しかし、費用対効果を十分に検討し、最小限の投資で最大の効果を得るような努力が必要である。

2. 新しい人事システム構築の取組

新人事制度の構築に当たっては、新人事制度構築プロジェクトチームを創設し、2008年度から試行に向けて準備を進めてきた。2008年度から、幼・小・中高の教員を対象に自己申告書を用いて各教員の達成度を第三者である所属長が評価を行う人事制度導入を決定した。

3. 本学院諸規程の抜本の見直しと再構築作業の継続

- 1) 給与体系システムと関係規程の見直しを中心に作業を実施。
- 2) 寄附行為の見直しを進めると共に、経営委員会を常任理事会に改称し常任理事会の権限と責任を明確にするため常任理事会設置規程新設するなど関連する規定の見直しを進めてきた。

4. 全学的な危機管理・安全安心対策の充実

- 1) 年度始めに、藤森学舎安全対策上の取り決め事項（具体的には、胸証携行の徹底、教職員の車両駐車、保護者の車両駐車、クラブなど他校教員の駐車、来訪者対応など）を定め、各所属に対し周知徹底を行った。
- 2) 防災訓練の所属間の連携のため所属の防災訓練の見学を実施した。
- 3) 不審者の侵入対策として、香里学舎において監視カメラ、侵入検知システム、緊急通報システムを新設、藤森学舎において、伏見教会と小学校の植え込みの間に柵を設置した。

5. 全学的な「建学の精神」の浸透と服務規律の徹底

- 1) 本学院の建学の精神である「カトリックの人間観・世界観に基づく教育を通して、真理を探究し、愛と奉仕と正義に生き、真に平和な世界を築くことに積極的に貢献する人間を育成する」を全教職員が自覚し、日々の生活において実践できるよう寄附行為の前文に明文化し、建学の精神の浸透を図った。
- 2) 服務規律の徹底については、胸証携行の徹底等を実施した。

6. 全学的な広報活動の充実

募集対策委員会を中心に、内部進学強化のために所属間の連携強化を図り活動を行ったが、結果的に成果を上げることはできていない。今後、理事会、広報委員会を中心に過去の反省も踏まえ、広報活動の充実に努める。

7. 法人事務局業務の抜本的見直しと再配分

法人事務局内の2部4課の縦割り業務を見直し、総務と経理のグループ制を導入した。担当者間の連携強化、効率的な事務処理体制の構築を図り業務を大筋で見直したものの、職務分掌は確立されておらず、今後事務処理マニュアル及び引継書の作成、職務分掌の確立が課題である。また、法人事務局として各所属の行事等へ積極的に参加し、各所属の状況把握に努めた。

以上